

国立長寿医療研究センターで提供する最新の医療とケア（1）

ポイント

- 1,002例の鑑別診断と多種職および地域連携で支える認知症診療を提供
- 外来窓口での個別相談（診断後支援）
- 認知症専門医療相談

- 新たな抗アルツハイマー病薬（レカネマブ）による治療を推進
最大限の安全性の確保
本人・家族への情報提供により最善の治療法選択を支援
レカネマブ治療を行わない方への他の治療法の提案

（1）診療実績（R5年度）

| 外来診療 | | 鑑別診断 (初診) | 再診数 | 高齢者総合 評価の実施 | |
|------------------|------|--------------|-----------|----------------|--------|
| R5年度の診療件数 | | 1,002件 | 6,175件 | 1,424件 | |
| 年次推移 | R元年度 | R2年度 | R3年度 | R4年度 | R5年度 |
| 鑑別診断 (初診) | 934件 | 841件 | 1,054件 | 917件 | 1,002件 |
| 外来での個別の相談（看護相談） | | | 381（231）件 | | |
| 認知症専門医療相談（電話・面接） | | | 785件 | | |
| 精神科病院（大府病院）との連携 | | | 85件 | | |

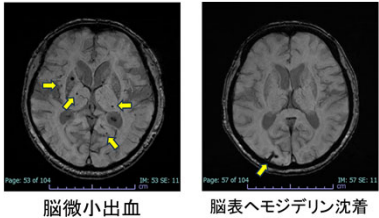
（2）新たな抗アルツハイマー病薬（レカネマブ）による治療の推進

| 令和6年 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 合計 |
|------|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 使用開始 | 5名 | 2名 | 5名 | 4名 | 5名 | 4名 | 3名 | 28名 |



特徴1

MRI磁化率強調像(SWI)を用いた微小な出血性病変の検出により、安全性を最大限に確保している。(レカネマブ治療前の適応判断および副作用の早期発見に活用)



特徴2

バイオバンク登録済のレカネマブ治療の対象者に、全国に先駆けて希望に応じて**ApoE遺伝子型**を開示し、副作用の発生率を踏まえた治療法の選択の判断材料として活用してもらっている。（表：開示後の経過）

| 年齢 | ApoE遺伝型 ε | 経過 | 年齢 | ApoE遺伝型 ε | 経過 |
|------|-----------|-----------|------|-----------|---------------|
| 50歳代 | 3/3 | レカネマブ | 60歳代 | 3/4 | 検討中 |
| 50歳代 | 3/3 | レカネマブ | 70歳代 | 3/4 | レカネマブ |
| 50歳代 | 3/3 | レカネマブ | 70歳代 | 3/4 | レカネマブ |
| 50歳代 | 3/3 | レカネマブ | 70歳代 | 3/4 | レカネマブ |
| 70歳代 | 3/3 | レカネマブ | 70歳代 | 3/4 | レカネマブ |
| 70歳代 | 3/3 | レカネマブ | 70歳代 | 3/4 | レカネマブ |
| 70歳代 | 3/3 | レカネマブ | 70歳代 | 3/4 | レカネマブ |
| 70歳代 | 3/3 | レカネマブ | 70歳代 | 3/4 | レカネマブ希望にて他院紹介 |
| 70歳代 | 3/3 | レカネマブ | 70歳代 | 3/4 | 検討中 |
| 70歳代 | 3/3 | レカネマブ | 80歳代 | 3/4 | レカネマブ |
| 70歳代 | 3/3 | レカネマブ開始予定 | 60歳代 | 4/4 | 体調を崩し入院 |
| 50歳代 | 3/4 | レカネマブ | 70歳代 | 4/4 | 治験 |
| 50歳代 | 3/4 | 治験 | | | |

特徴3

レカネマブ治療の対象とならなかった方や希望されなかった方に他の治療法を提案している。

- 他の治療法による治験
- 脳・身体リハビリテーション
- 本人・家族ペアを対象にした認知症教室（診断後支援）等



国立長寿医療研究センターで提供する最新の医療とケア（2）

ポイント

- 脳・身体リハビリテーション
- 本人・家族ペアを対象に認知症教室（診断後支援）

- 若年性認知症支援
- 地域連携の推進（あいちオレンジタウン構想）

（1）脳・身体賦活リハビリテーション（脳活リハ）



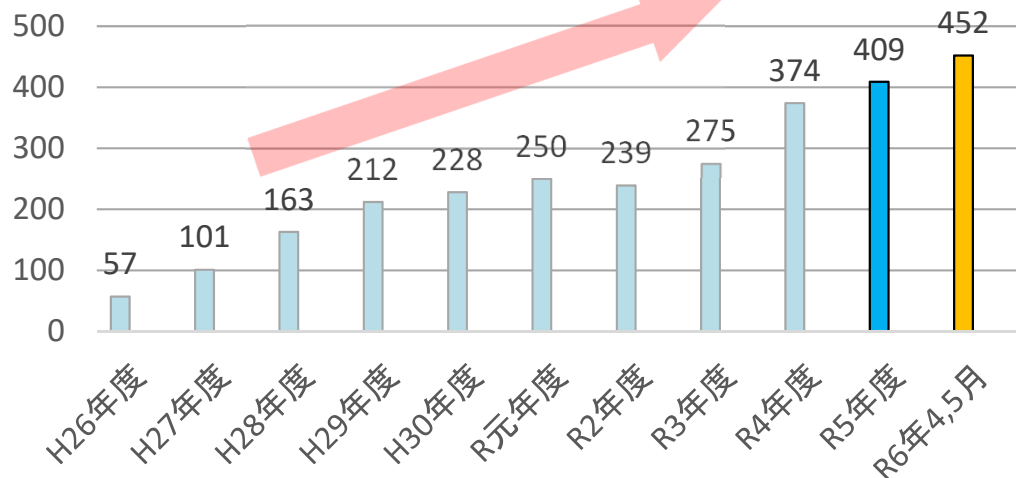
二重課題訓練としての運動療法



家族教室

診断後支援、薬物治療の非該当者への支援として、軽度認知障害と認知症の人に対し、包括的リハビリテーションを実施した。リハビリを通じて職員として就労するまで回復した認知症の人もある。

【脳活リハ 患者数推移】



平成26年より脳活リハの患者数は伸びており、令和5～6年度についても増加傾向である。

スタッフのチーム構成の見直しを実施し、専従スタッフを配置するなどの業務の効率化を図ることで、脳活リハ実施回数の増加、患者数の増加へとつながった。

（2）本人・家族ペアを対象にした認知症教室（診断後支援）

軽度認知障害または認知症の人とその家族を対象に**4点の特徴**を有した心理社会的介入プログラムの効果検証を無作為割付試験で実施中。



- 特徴1** 軽度認知障害および認知症の人と家族の同時参加型
- 特徴2** グループ型
- 特徴3** 理論とニーズに基づいたマルチコンポーネント型プログラム
 - ・回想法
 - ・ストレスマネジメント理論
 - ・レクリエーションアプローチ（音楽・漫才）
- 特徴4** 非専門職によるリード（写真）



©YOSHIMOTO KOGYO CO., LTD.

| | | |
|------|-----------|-----------|
| 進捗状況 | 介入群（教室参加） | 18ペア/60ペア |
| | 対照群（資料送付） | 18ペア/60ペア |

（3）地域連携

- ・ あいちオレンジタウン構想
- ・ 若年性認知症の新規支援が46件
- ・ 認知症地域医療連携協議会
- ・ 愛知県：認知症疾患センター事業評価
- ・ 老健事業（認知症の医療提供体制に関する調査研究事業）での提言